

アサヒキャンプに居場所をもらっています

K・Y (小6男子母 2026年2月記す)

一年前、学校の宿泊行事を前に、小5の本人も親も不安が強く、焦る気持ちで利用を始めたのがアサヒキャンプでした。最初は親から離れることを心細そうにしていましたが、回を重ねるごとに表情が変わり、今では振り返りもせず、当たり前のように離れていく姿に成長を感じています。少し寂しい気持ちもありますが、それ以上に「ここに自分の居場所ができたのだ」と思えることが、親として何よりうれしいです。

グループで関わってくださったお兄さんお姉さんだけでなく、別のグループの方も、息子の姿を見ると自然に名前を呼んで声をかけてくださいます。そのたびに、きちんと一人の参加者として見てもらえているのだと感じ、毎回驚きと感謝の気持ちでいっぱいになります。また、はじまりの会の雰囲気がとてもあたたかく、あの空気に触れるだけで親子ともに安心できるのも、アサヒキャンプの大きな魅力だと思います。

「何度も繰り返し、淡々と伝え続けることが大切」と頭ではわかっていても、現実には心が折れてしまう場面がたくさんあります。そんな中で、アサヒキャンプでは独自の呼応ややりとりを、スタッフの皆さんが毎回笑顔で、楽しそうに繰り広げてくださいます。歌や自己紹介を、お兄さんお姉さん自身が心から楽しんでいる様子を見ると、思わず涙が出てきます。しつこい行動をしてしまう息子の周りで、難しい表情をされる場面を日常で見慣れている分、あの雰囲気に何度も救われたかわかりません。さらに、活動後のフィードバックでも、課題やできなかつた点を指摘するのではなく、微笑ましいエピソードとして息子の姿を伝えてくださいます。「直さなければならない存在」ではなく、「ありのままでここにいていいのだ」と思わせてもらえたことは、親にとっても大きな支えでした。

家では、息子がお兄さんお姉さんへの憧れから、次の活動のテーマは何だろうと考えたり、キャンプで見た様子を思い出しながら、歌詞幕やしおりを真似て作ってみたりと、「アサヒキャンプごっこ」に夢中になっています。お兄さんお姉さんの服を真似て、自分の服にイニシャルを刺繡することに挑戦する姿もありました。声かけや進行を再現しながら遊ぶ姿から、楽しかった記憶だけでなく、安心できた体験が心に深く残っていることが伝わってきます。

また、行事の際に送迎で集まる保護者の方々と顔を合わせ、言葉を交わせる時間があることも、私にとって大きな心の支えです。「今度はこれを聞いてみよう」「この課題のヒントをもらえるかもしれない」と思えるような、情報交換や共感の場を自然に用意してくださっていることに、感謝の気持ちでいっぱいになります。

自分の世界が強く、子ども同士で過ごすことが難しい息子に対しても、無理に型にはめることなく、丁寧に付き合ってくださり、本当に感謝しています。アサヒキャンプは、子どもだけでなく、親の心もそっと支えてくれる、かけがえのない居場所です。これからも、この大切なつながりが続していくことを願っています。